

ボランティアデーにベルマーク活動を

ジブラルタ生命松江支社、「仕分け」「寄贈」

協賛会社のジブラルタ生命保険（ベルマーク番号15）は、毎年10月に社員とその家族がボランティアをする「インターナショナル・ボランティア・デー」（以下、ボランティアデー）を設け、社員と家族が街頭募金や清掃活動、お祭りなど多様なボランティアをしています。



島根県松江市にある同社の松江第二営業所は、昨年より近くの小学校でベルマークの集計作業を手伝っています。

きっかけは2015年6月のベルマーク運動説明会。同営業所ライフプラン・コンサルタントの山根博幸さんが、お子さんの通う小学校のPTAの役員として何気なく出席したのですが、「知らなかったことばかりで衝撃を受けました」。さらに校内で未整理のマークを大量に発見、放っておかず、休眠状態だった活動を再開させました。「実際に活動してみると、仕分けの負担をいかに減らせるかが継続のポイント。例年秋頃にマークを送ると結果の返送が早いと聞き、10月のボランティアデーの活動にぴったりだと思ったんです」と山根さん。

また、地域貢献活動の一環として、ジブラルタ生命松江支社に属する7営業所は、4年前から市内の学校へ寄贈するためベルマークを集めてきました。契約者や社員から寄せられたマークは今年1年間だけでも36,000点になります。

10月4日、朝から松江第二営業所の社員約10人が松江市立中央小学校（河井克典校長、児童350人）に集まりました。

同校はPTAがマークを会社別に分けませんが、点数集計には手が回りません。そこで昨年からお手伝いをしています。「捨ててしまうマークを少しでも減らしてお役に立ちたい」と所長の藤原均さん。

同時に、支社で集めたマーク5000点が松江第二営業所の深田英男さんから河井校長に手渡されました。「助っ人になって下さり心強いです。大切に使いまわす」と河井校長。同小では週一回全クラスで行う本の読み聞かせにもジブラルタ生命の社員が参加しています。

午後、一行は市立竹矢小学校（永井孝夫校長、児童311人）を訪ね、5000



点のマークを寄贈しました。山根さんが活動を復活させた学校です。あれから3年。PTA研修部に加えて児童の「思いやり委員会」も活動を担い、山根さんは2018年の説明会で発表役も務めました。点数は着実に伸びているそうです。津田昌彦教頭は「ベルマークが身近な存在になるように、児童にカタログで欲しいものを選んでもらっています」。

その後は市立第四中学校（小田川俊明校長、児童614人）へ。昨年より福祉



委員会の生徒が主体となってベルマーク活動をしています。委員会の生徒二人に、松江第一営業所の田部博也さんから10,000点が手渡されました。委員会担当の重谷淳子先生は「毎学期メンバーが変わり、仕分けや集計方法を理解してもらうのが難しく、企業の方に手伝っていただけたら助かります」と話しました。

松江支社でマーク集めの中心となっている深田さんは「地域貢献には様々な方法がありますが、ベルマークは学校と子供のメリットになります。この取組みを社内でも積極的に広げていきたい」。また山根さんは、「子どもたちのために大人が出来る事がベルマーク。備品購入が被災地やへき地の支援にも繋がるという仕組みが良いですね。活動がさらに広がって欲しい」と思いを込めました。



インターナショナル・ボランティア・デーにあわせたジブラルタ生命のベルマーク活動は他にも様々なものがあります。愛知県豊橋市の「豊橋まつり」で10月21日に設営されたベルマークブースへの協力もそのひとつ。また東京都千代田区の本社ビルでも10月4日、同社教弘推進チームのメンバーがマークの仕分け作業をしました。チームリーダーの朝長正康さん、教弘担当役員の前川明久さん、執行役員でベルマーク大使の松本哲さんなども参加、皆そろいのTシャツを着用し、卵の空きパックなどを使って仕分けを進めました。

13年連続マーク寄贈 「松愛会」山陰支部

パナソニックグループの定年退職者が参加するOB会「松愛会（しょうあいかい）」の山陰支部は2005年からベルマークを集め、これまでに計10万点余を地域の学校に寄贈してきました。

松愛会は全国35支部、29,050人（2018年10月現在）。創業者の松下幸之助の精神に基づき様々な社会貢献活動をしています。山陰支部の集めたマークは、今は松江市立湖南中学校に贈られています。そのためか、湖南中は昨年度、島根県内の中学校で集票点数第1位になり、生徒から大変喜ばれたそうです。

会員に支部だよりを郵送する際、切手を貼った返信用封筒を入れてマークを集めています。支部長の吉岡保夫さん（69）は、「7割はきちんと返ってきます。支部長会議で他の支部からマークをいただく事もあるんですよ」。仕分けと集計は役員4人を中心に年度末に一日かけて行います。虫眼鏡を使いながら一枚ずつ丁寧に数えるそうです。

地区委員で社会貢献活動責任者を務める赤星啓夫さん（67）は「体調や家庭の事情で活動に参加できない方も、ベルマークを送ることで参加意識が生まれ、一体感を高めるのに役立っています。誰かの笑顔のために社会貢献したいという想いが、もっと認められる世の中になってほしい」と話しました。



湖南中学校での贈呈式

牛乳石鹼が「手洗い」出前授業 大阪・榎本小学校で

ベルマーク協賛会社の牛乳石鹼共進社（本社・大阪市、ベルマーク番号37）による出前授業「手洗い教室」が大阪市鶴見区の榎本小学校でありました。同社がファンづくり活動の一環として3年前から実施している教室です。10月16日と23日、1年生あわせて約170人が手洗いの大切さと正しい方法を学びました。

先生役の牛乳石鹼社員が「なぜ手を洗わないといけないの？」と問うと、「ばい菌が付いているから」と子どもたち。「ばい菌が付いたままだとどうなるの？」「お腹が痛くなったり、病気になるよ」。特殊な光を当てると白く光るクリームを使って手洗いの効果を調べ、トランプで汚れが広がる実験をし、正しい洗い方をみんなで学びました。最後に「一人ひとりが石鹼できちんと手洗いをするのが大切」と教わり、子どもたちは「これからはしっかり洗う」とうなずいていました。



旭松、味の素、明治が出展 大阪で「食と科学のふしぎ博」

身近な「食」を通じて科学の面白さや大切さを体験するイベント「食と科学のふしぎ博」が9月22日、大阪市住之江区の大阪南港ATCであり、ベルマーク協賛会社の旭松食品（大阪市淀川区）と味の素（東京都中央区）、明治（同）もブースを出展しました。

旭松食品は「こうや豆腐のカガクを体験しよう！」と題し、かたい高野豆腐をやわらかく戻すにはどうすればいいかを、子どもたちと一緒に実験しました。味の素は、タンパク質を構成するアミノ酸が、味の成分としても重要な役割を果たしていることを知ってもらおうと、「味のふしぎ～アミノ酸ってなあに？」を開催。明治はヨーグルトの秘密を楽しく学べるブースを出し、いずれもたくさんの親子連れで賑わいました。

同博は教科書や教材を発行する新興出版社啓林館（大阪市）が主催、17の企業・学校などが協力しました。



国際福祉機器展にラッキーベル、 キューピー、内田洋行が出展

アジア最大級規模の福祉機器の展示会「第45回国際福祉機器展 H.C.R」が10月10～12日、東京都江東区の東京ビッグサイトで開かれ、ベルマーク協賛会社のラッキーベル（ベルマーク番号03）とキューピー（同07）、協力会社の内田洋行が出展しました。

ラッキーベルは介護用シューズ「ラポーター」シリーズを紹介。歩きやすさを追求したスニーカー「ユニートン」はベルマークが56点です。キューピーは栄養サポート食品「ファインケア」と介護食「やさしい献立」両シリーズの試食を実施しました。内田洋行は福祉システムの「絆」シリーズを展示し、介護や福祉サービス業務を効率化する総合管理システムを紹介しました。

今回の福祉機器展には世界14カ国から620を超える企業・団体が出展、約20,000点の最新福祉機器が展示され、119,452人が来場しました。

